

「皮膚科の臨床」の60巻記念企画として始まった『ちょっと一息 医局ラウンジ』も第10回を迎えている。さまざまな大学の医局の楽しそうな雰囲気から、若手皮膚科医の職場の環境やモチベーションの維持に配慮された医局運営を感じる。特に入局先を決める初期研修医には参考となる内容であろうと思われる。そのような若手にとって大きな関門の一つが皮膚科専門医試験である。今月号は、佐藤佐由里先生の皮膚科専門医試験に関する巻頭言から始まる。私も20年以上前のことだが、専門医試験制度ができて間もない時代に受験している。留学から帰国後すぐに忙しい臨床病院に出たこともあり、2、3年遅れての受験だった。最低年限で受験する後輩や同じように留学したりして受験が遅れた先輩などと一緒に受けた。故上野賢一教授の書かれた教科書を1冊読んで試験勉強はしたが、面接試験では知り合いの面接官に当たって、尋麻疹様皮疹の写真を見せられても成人Still病が思いつかず、恥ずかしかったことを思い出す。

現在、病院の皮膚科勤務医の立場にあって、専門医の受験資格がとれることは若手の医師が研修病院を選ぶ魅力の一つと考え、専門医をとるための教育にも力を入れている。日常の臨床経験を積んでもらうことはもちろんだが、受験資格のための学会発表、論文作成から始まり、過去問を解く勉強会に付き合ったりもしている。正直なところ、最近の問題は難しい。新しい抗原や遺伝子が特定されて疾患概念が変わったり、整理されたりしている。さらに、生物学的製剤を含めた治療法の開発によって発症機序が詳細にわかるようになった疾患も少なくない。新しい薬剤が登場すると、それぞれの作用機序、適応、副作用などを理解することを要求される。教育をしているというよりも、自分自身の知識を増やすために自主勉強に参加しているというのが正直なところである。

専門医試験も合格がある以上、結果は悲喜こもごもだが、医師国家試験とは本質的に異なる。もちろん合格するに越したことはないが、不合格だからといって皮膚科医としての実力が下がるわけではなく、合格したからといって皮膚科医として患者さんに特別なことができるようになるわけでもない。合格にかかわらず続く毎日の診療のなかで、日々の精進を心掛けることによって、さらなる皮膚科医としての技量の向上を目指さなければならない。専門医試験は、ゴールでもスタートでもなく、ただの通過点に過ぎない。佐藤佐由里先生の巻頭言にある言葉のように、「医学に貢献し、医学の歩みに遅れないことが医師の勤めだと心掛け」、「the long and winding road」を進んでいきたい。

(林 伸和)

— 顧 問 —

肥田野信 大原國章

— 編集委員 —

大塚藤男 土田哲也 五十嵐敦之 相馬良直 林 伸和

「皮膚科の臨床」第60巻 第11号 10月号

2018年10月1日発行（毎月1回1日発行）

定 価（本体 2,700 円＋税）

年間購読料金 定価（本体 42,100 円＋税）

〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕

TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕

FAX 03(3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600

- 本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

- JCOPY＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつと事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。